

平成 19 年度事業報告

自：平成 19 年 4 月 1 日
至：平成 20 年 3 月 31 日

概況

平成 19 年度は、米国におけるサブプライム問題に端を発した世界金融の混乱と原油や穀物の価格高騰など世界経済の動向が、短期間に日々の生活に直結することを実感させられました。国内では、中国産品からの有毒物質の検出をはじめ、食品の偽装問題や年金の記録漏れが発覚するなど、企業・行政に対する不信や不安が拡大する一年でした。また、異常気象や地震など大型の災害が多発するなど、環境問題がより強く意識され始めました。

当財団の財政状況は、法人賛助会費収入が予算に達しませんでした。寄付金収入が大きく伸び、また、緊急援助に対し募金や特定の寄付を得たため、全体として当期予算を大きく上回る収入を得ることができました。

事業活動は、地域開発援助事業を積極的に進め、カンボジア、ベトナムの 2 カ国で 7 件の事業と他団体との共催によりアフガニスタンとモンゴルでそれぞれ 1 件の事業を実施するなど、合わせて 9 件を実施しました。カンボジア小児外科支援事業では、地方医師への技術研修も軌道に乗り、新たに日本人看護師を派遣しカンボジア人看護師の育成に本格的に取り掛かりました。また、病院給食支援事業では日本人の管理栄養士が常駐し、カンボジア初となる栄養学的な視点に基づく給食を開始することができました。これら 2 つの事業の業績が評価され、栄えある「保健文化賞」を受賞できたことは当財団にとって特筆すべき事項となりました。ベトナムのナムザン郡地域総合開発事業は、7 年にわたる活動を通じ多くの成果が認められ、住民や地域社会に大きなインパクトを与えて終了することができました。リエンチエウ区生計安定支援事業は、現地カウンターパートとの事業運営体制を整え、住民への具体的な活動が始まりました。

緊急援助では、7 月に発生した新潟県中越沖地震の被災者に対して、(特活)ワールド・ビジョン・ジャパンと協力して支援活動を実施しました。

調査研究事業では、(財)国際医療技術交流財団と共催でカンボジアの医療従事者育成のためのセミナーを開催しました。

啓発教育事業では、カンボジアの病院給食支援事業を題材として報告会や写真展を開催した他、特設ホームページを設けて支援募金を呼びかけました。また、企業や支援者団体での活動報告会開催や企業での社内ボランティア活動の共同実施、中学生に対する開発教育ワークショップの実施などを通して、当財団の活動をわかりやすく紹介しました。


事業費明細

(単位：円)

項目	実績	前年度実績
1 地域開発援助	148,756,583	138,998,552
2 緊急援助	5,463,023	18,719,618
3 調査研究	3,779,348	11,764,043
4 啓発教育	15,411,717	15,228,915
5 人材派遣・受入	47,169	0
合計	173,457,840	184,711,128


カンボジア

国際通貨基金（IMF）によれば、カンボジアは 2004 年以來毎年、二桁の経済成長を続けています。特に繊維縫製産業や観光産業の成長には目を見張るものがあり、中国、韓国を中心とした海外からの直接投資額も増え、首都プノンペンを中心に高層ビルやショッピングモールの建設が進んでいます。しかし、カンボジアでは、国連が定義する「絶対貧困層」である 1 日 1 ドル以下で生活する人たちが人口の 34%^{*1}と、多くの人たちがその日の食事を得ることさえ難しい状態にあります。さらに、物価高騰の影響で 2007 年のインフレ率は「18.7%」という高い数値を記録し、貧困層の生活はさらに苦しいものになっています。このような状況の中、当財団では、「農村開発分野」で新しい手法を導入した農業活動を行い食糧事情の改善を図りました。また、「保健医療分野」では国立小児病院において、地方の病院に勤務する医師、及び同病院看護師の育成に取り組みました。さらに、入院患者へ病院給食の配膳を開始し、カンボジアの未来を担う子どもたちの健全な成長と発達を願い、多岐にわたる事業に取り組みました。


事業名	カンボジア小児外科支援事業	事業地	プノンペン市・カンボジア国立小児病院
事業目的	カンボジアで子どもが迅速かつ適切な医療診断、及び外科治療を受けられるように、国立小児病院(NPH)を拠点として診断・治療技術の基礎を確立し、地方にもその技術を広げていくことを目指す。		
受益者	<ul style="list-style-type: none"> ・国立小児病院外科職員（医師、看護師等）約 50 人、地方病院の外科医 ・国立小児病院外科患者 年間約 3,500 人、患者の保護者等 ・地方病院の小児外科患者 		
事業内容・成果など	小児外科研修を終えた地方病院の医師（第一期生）が各々の州病院へ戻り、新たな知識、技術を用いた小児外科患者への診療や手術を開始した。また、第二期生の研修が始まり、順調に進んでいる。日本人専門家（医師及び看護師）の指導や技術研修を通して、NPH 外科の医師の診療知識や手術技術が向上し、看護師の看護ケアが改善された。さらに、医師と看護師の連携が強化・改善され、患者への医療サービスが向上した。		
主な活動	地方病院の医師に対する技術研修 (2,372 千円) ・研修滞在費、セミナー開催等 NPH 外科職員に対する技術研修 (13,337 千円) ・専門家派遣（医師及び看護師）による指導、セミナー・研修開催、NPH 医師の日本での学会参加、教材費等 医療器材配備 (9,378 千円) ・手術器具、小型卓上蒸気滅菌器 その他 (189 千円) ・プレイルーム活動費 ・空調設備の設置等	 <p>外科病棟での看護研修にて。風船を患者のお腹に見立て、聴診器の使い方を指導する上住看護師（左から 2 人目）</p>	
<p>【事業費】 実績 29,255,818 円（予算 17,907,000 円） （内訳）自己資金：14,832,834 円（内、特定資産 2,463,122 円） 特定寄付：14,422,984 円</p>			

*1 国連・人間開発レポート 2006 年

カンボジア

事業名	国立小児病院給食支援事業	事業地	プノンペン市・カンボジア国立小児病院
事業目的	国立小児病院(NPH)における治療効果の向上のために、患者の栄養状態の改善を図る		
受益者	<ul style="list-style-type: none"> ・国立小児病院入院患者 年間約 17,000 人、患者の保護者等 ・国立小児病院職員（医師、看護師、調理員） 		
事業内容・成果など	<p>NPH のほとんど全ての患者が、現地の食事情とコストを十分に考慮した給食を 1 日 3 食、受け取ることができるようになった。</p> <p>そのなかで、NPH の給食担当職員が、FIDR が主導する研修により、基本的な栄養の知識と食材の調達や管理に関する技能を身につけ、給食業務の運営の一端を主体的に担うことができるようになった。</p> <p>カンボジアにおける初の本格的な病院給食の取り組みとして、他の病院やカンボジア政府からも関心を寄せられるようになってきている。</p>		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者への給食提供(4,938 千円) ・食材購入支援 NPH 給食担当職員研修(5,666 千円) ・海外(タイ)への視察、研修教材、専門家派遣(管理栄養士)による研修等 厨房機材・用具の配備(2,511 千円) ・調理用器械、調理用具等 		
	1日3食、バランスの良い給食が、患者に届けられるようになった。調理員たちは、各病室を回って配膳する		
<p>【事業費】 実績 16,035,216 円（予算 19,233,000 円）</p> <p>（内訳）自己資金：6,428,986 円（内、特定資産 6,428,986 円）</p> <p>ヤマザキ・ラブ・ローフ募金：6,215,728 円 特定寄付：3,390,502 円</p>			


カンボジア

事業名	学校建設事業	事業地	コンボンチュナン州ロレイアッピア郡及びトック・ポ郡
事業目的	小中学校に必要な施設、設備を設け、児童が快適に教育を受けられるようにし、初等中等教育の充実を図る。		
受益者	<ul style="list-style-type: none"> ・事業対象地域の児童・生徒 878人（児童：401人、生徒：477人） ・事業対象地域の教員 21人 ・事業対象地域住民 15村 13,942人 		
主な活動	<p>アピヴァット小学校校舎(3室、トイレ2室) 【継続】(556千円)</p> <p>プラスナップ小学校校舎(6室、トイレ2室、遊具)【継続】(1,178千円)</p> <p>アピヴァット中学校校舎(6室、トイレ2室) (3,865千円)</p> <p>ミタピアップ(旧称トラパイン・プリン)小学校校舎(3室、トイレ2室、井戸1基)(2,101千円)</p> <p>サンポー小学校(遊具)(110千円)</p> <p>ブレイレアック・ニアン小学校(遊具)(110千円)</p> <p>設計費(81千円)</p> <p>以上、いずれも3名の個人寄付者と3社の企業からの寄付によって実施された。</p>		<p>授業を終え、下校する子どもたち(ミタピアップ小学校)。村から5km離れた小学校に通うのが難しい、低学年の子どもたちがこの学校で勉強している</p>
<p>【事業費】 実績 9,909,832円（予算 9,485,000円） （内訳）自己資金：761,446円 特定寄付：9,148,386円</p>			

カンボジア

事業名	ロレイアピア郡農村開発事業	事業地	コンポンチュナン州ロレイアピア郡 アンドンスナイ地区及びコークバンティエイ地区
事業目的	対象地域の住民が健康的な生活を送るために十分な食糧を確保し、栄養のある食事を摂れるようになることを目指す。		
受益者	・ 5村(バンボン・パチェアック村、パヒー村、トバン村、オウタセイク村、チュートラック村)の住民 約 2,800人		
事業内容・成果など	<p>事業初年度の活動としてまず、SRI農法*、家庭菜園、養鶏のトレーニングを実施し、数世帯が先駆的に実践した。その結果、SRI農法では、平均して2倍の収量が上がり、それを見た他の農家が参加を希望するようになるなど当農法が広がり始めている。家庭菜園と養鶏は自家消費分の他、売って現金収入を得られた世帯もあった。</p> <p>* SRI農法...1983年にマダガスカルで考案された稲作技術。発芽してから1~2週間の乳苗を広い間隔で1本ずつ植え、水田を時々乾燥させることで、苗同士で競争することなく丈夫に稲が育つようになる。こうして、水や肥料などの投入を減らして、より多くの収量を上げることが可能となる。</p>		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・米の生産性向上(88千円) ・稲作技術トレーニング、視察研修 ・小規模家畜飼育による収入向上(90千円) ・養鶏トレーニング ・食生活の改善(30千円) ・子どもの栄養状態の把握、家庭菜園のトレーニング・資材供与 ・衛生的な環境の整備(224千円) ・井戸設置、衛生教育ワークショップ実施 		
		SRI農法を取り入れて、稲作を行った農民。伝統的な農法と比べて、収穫は平均2倍となった	
<p>【事業費】 実績 3,445,343円 (予算 5,721,000円) (内訳) 自己資金:3,175,343円 特定寄付:270,000円</p>			


カンボジア

事業名	カンボジア国際セミナー実施事業	事業地	プノンペン市・カンボジア国立小児病院
共催団体	(財)国際医療技術交流財団		
事業目的	カンボジアにおける臨床工学と理学療法の技能向上のための国際セミナーを開催することで、同国における当該分野の人材の育成を図る。		
受益者	・カンボジア国内の医療従事者、政府職員、学生		
事業内容・成果など	<p>セミナー当日は日本大使館及びカンボジア保健省の代表を迎え、カンボジア全国から100名を越す参加者があり、その模様は現地の新聞やテレビで報道された。</p> <p>1日間のセミナーではあったが、カンボジア国内の医療関係者や学生等に臨床工学と理学療法に関する関心を喚起することができ、今後、カンボジアで両分野の技術向上に向けた支援を展開していくための足がかりを築くことができた。</p>		
主な活動	<p>国際セミナー開催(611千円)</p> <p>・会場設営、通訳、配布資料作成など</p> <p>国際セミナー主催団員旅費(450千円)</p> <p>・航空運賃、ビザ申請、宿泊料等</p>	 <p>分科会(理学療法)の様子。日本の技術発展の経験を紹介し、カンボジアにおける今後の取り組みの在り方を考察した</p>	
【事業費】 実績 1,099,587 円 (内訳) 全額自己資金 (予算 2,500,000 円)			


ベトナム

ベトナムでは、2007年1月のWTO加盟により経済活動が一段と活発化し、昨年度も8%を超える高成長を成し遂げました。しかしながら、経済活動を牽引している工業化・都市化に伴い、個人の所得格差や都市と農村間の格差が拡大し、環境汚染等、急速な社会変化による負の側面が表面化しています。

このような状況の中、平成19年度は当財団が初めて独自で取り組んだ「ナムザン郡地域総合開発事業」を成功裡に終了することができました。当事業の成功事例や学びを他地域に活用するべく、近隣の山岳農村地域において新たな地域開発事業のための調査を行ったほか、タイヤン郡では小中学校建設事業に着手しました。都市部では主に著しい工業化によって農地を失った人々を対象として、生計向上支援事業を継続してきました。

事業名	ナムザン郡地域総合開発事業	事業地	クアンナム省ナムザン郡カジー社・タビン社
事業目的	ベトナム政府から「全国最貧社」に指定されている両社に住む山岳少数民族の人々が、農業や保健・医療、教育分野などに関わる様々な問題を自分たちで解決し、生活水準が向上するように努める。また、急激な社会的・経済的变化に直面する中で、彼らがこの地域の持続的な発展を担っていける能力(知識、技術、経験)をつけることを目指す。		
受益者	カジー社及びタビン社の17ヵ村の住民 ・活動参加者 約1,500人 ・その他の地域住民 約3,800人		
事業内容・成果など	7年にわたる事業の最終年度を迎えるに際し、事業終了後も活動が円滑に進むよう、行政や関連組織に働きかけ、活動の継続性確保に努めた。 また内部評価を行い、パネルやビデオを通して、事業の成果を関係者や他のNGOと共有した。評価を通して、地域住民が「生活水準が向上している」と認識していることが分かり、当事業の目的は達成されたことが明らかになった。		
主な活動	<p>農業(792千円) ・傾斜地農業の普及、米・種子銀行の設置、農具供与など</p> <p>畜産(1,201千円) ・家畜飼育研修の実施、牛・豚銀行の設置等</p> <p>伝統手工芸(694千円) ・デザイン、マーケティング研修の実施、販路拡大のための展示会出展等</p> <p>保健医療(43千円) ・栄養・衛生改善研修の実施等</p> <p>教育(1,402千円) ・成人向け識字教室の開催、小学校建設</p> <p>人材育成(292千円) ・スタディツアー実施、事業運営に関する研修の実施等</p> <p>事業内部評価(356千円)</p>	 <p>評価結果を発表するワークショップでは、当事業の活動の一つである「伝統手工芸」で作られた伝統織物を活かした手工芸品を販売した</p>	
<p>【事業費】 実績 10,544,211 円 (予算 12,493,000 円) (内訳) 自己資金:3,932,643 円 日本 NGO 支援無償:4,005,177 円 特定寄付:2,606,391 円</p>			

ベトナム


事業名	リエンチエウ区生計安定支援事業	事業地	ダナン市リエンチエウ区 ホアヒエップ北・南地区
事業目的	都市開発や工業団地の拡張等の影響による急激な社会変化に直面し、主収入源(農業)の転換を余儀なくされている都市近郊の住民が、収入向上のための研修や行政との情報共有の場への参加を通じて、生計が安定することを目指す。		
受益者	ダナン市リエンチエウ区ホアヒエップ北・南地区の地域住民 ・都市開発によって農地を収用された貧困世帯*の住民 325 世帯(約 1,235 人) ・その他の地域住民 2,300 世帯(約 9,000 人) * 貧困世帯...「一人当たりの所得が 30 万ドン(約 2,300 円) / 月」以下の世帯		
事業内容・ 成果など	事業初年度である本年は、当事業の目的を共有するため、事業関係者と協議を重ね、関係者間の調整を図り、相互理解の醸成に努めた。 また、地域住民を対象にした様々な職種を見学するツアーでは、参加した住民が見学先と活発な質疑応答をし、自分たちで再度ツアーを企画するなど、自らの生計安定に向け取り組む姿が見られた。		
主な活動	地域相談員の設置・研修(300 千円) 地域住民を対象にした収入向上のための職種見学ツアー(48 千円) 事業管理委員会の設置・研修(539 千円) 貧困世帯の少女に対する奨学金の支給(125 千円)		地域のリーダーたちを対象として、プロジェクト運営に必要なノウハウを学ぶための研修を開催した
【事業費】 実績 3,021,575 円 (内訳) 全額自己資金 (予算 6,222,000 円)			


ベトナム

事業名	ラン小中学校建設事業	事業地	クアンナム省タイヤン郡ラン社
事業目的	児童・生徒が快適・安全な設備で教育を受けられる環境を整備することで、当該地区における初等中等教育の充実を図る。		
受益者	・通学児童・生徒数 約600人(児童:285人、生徒:315人) ・教員 30人 ・通学対象3社(ラン社、タヒー社、アティエン社)の地域住民 約4,535人		
主な活動	教室校舎2棟の新設(各棟4教室、計8教室)(1,817千円)  校舎建設にあたり、関係者と協議を重ねた	 施工監理者による工事のモニタリングが定期的に行われる	
【事業費】実績 1,845,852円 (予算 6,000,000円) (内訳)「愛の泉」チャリティーコンサート:1,845,852円			

調査名	クアンナム省新規事業調査	調査地	クアンナム省
調査期間	平成19年4月～平成20年3月	調査費実績	1,105,064円
調査地	クアンナム省		
調査内容	平成20年度から同省で地域総合開発事業を実施するにあたり、対象地域及び活動内容を策定するため、当該調査対象地域のニーズ調査を、地域住民の参加と協力を得て、行った。 その結果、貧困率の高い山岳地域の自然・社会環境を把握し、対象地域を絞り込むことができた。さらに、住民の生活環境、主食である米の生産性の低さ、収入機会の少なさ等、地域が抱えている問題について把握した。		

その他の国：アフガニスタン、モンゴル

事業名	アフガニスタンにおける医療支援事業	事業地	アフガニスタン・カブール市 燈台クリニック
共催団体	(特活)燈台		
事業目的	カブール市の燈台クリニックを拠点とし、アフガニスタンの風土病であるリーシュマニアの患者を治療するとともに、アフガニスタンの人々の公衆衛生への意識を高め、健康な生活を実現する一助とする。		
受益者	・カブール市及びその近郊の住民 約 12,000 人		
事業内容・成果など	アフガニスタンで、リーシュマニアの治療への国家予算が減少している中で、燈台クリニックでは多くの患者を受け入れ、治療を行った。治療終了の患者数も着実に増えている。		
主な活動	診療活動(1,482 千円)	燈台クリニックを訪れた、リーシュマニアの患者たち	
【事業費】 実績 1,482,000 円 (内訳) 全額自己資金 (予算 2,500,000 円)			

事業名	モンゴルにおけるストリートチルドレンの保護・養育事業	事業地	モンゴル・ウランバートル市
共催団体	(特活)マナイゲルをつくる会		
事業目的	モンゴルのストリートチルドレンに対して、家庭に代わる養育に関する事業を行い、子どもたちが再び路上に戻ることなく、安心して生活できる安定した環境を提供することを目指す。		
受益者	・2 歳～12 歳の幼児及び児童 7 人 ・ウランバートル市内の 2 歳～18 歳の幼児・児童及び青年		
事業内容・成果など	モンゴルで、親の死亡や家庭崩壊などにより孤児やストリートチルドレンとなった子どもたちを保護し、養育することができる児童福祉施設を運営した。また、現地における活動運営の質的向上、透明性確保に努めた。しかし、期待する成果が得られなかったことから、事業を停止し、その後終了することとした。		
主な活動	児童福祉施設の運営(539 千円) 活動の施設の運営管理向上のためのコンサルタント雇用(61 千円)	児童福祉施設の子どもと保育士たち	
【事業費】 実績 1,105,013 円 (内訳) 全額自己資金 (予算 2,500,000 円)			



その他の国：日本

事業名	新潟県中越沖地震復興支援事業	事業地	日本・新潟県柏崎市、及び刈羽郡刈羽村
共催団体	(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン		
事業目的	新潟県中越沖地震の被災者である柏崎市及び刈羽村の仮設住宅入居者の生活環境改善を図る。		
受益者	<ul style="list-style-type: none"> ・柏崎市仮設住宅入居 788 世帯 ・刈羽郡刈羽村仮設住宅入居者 152 世帯 		
事業内容・成果など	<p>平成 19 年 7 月 16 日(月)に発生した新潟県中越沖地震は、新潟県中越地方並びに長野県北部に甚大な被害をもたらした。FIDR は(特活)ワールド・ビジョン・ジャパンと共催し、特に被害の大きかった新潟県柏崎市と刈羽郡刈羽村において仮設住宅入居者への支援を実施した。</p> <p>支援内容は現地調査を経て決定し、ホットカーペットの寄贈により仮設住宅内における暖房設備の充実、風除室の設置により住居環境の改善、除雪用具の寄贈により降雪時における仮設住宅周辺の安全及び環境整備、備品の寄贈により仮設住宅敷地内共用スペースの充実など、仮設住宅入居者の生活環境改善に寄与した。</p>		
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ホットカーペット寄贈(1,018 千円) ・152 世帯 186 戸に対して 2 畳用ホットカーペットを各戸に 1 枚寄贈(刈羽村) 風除室の設置(3,750 千円) ・788 世帯に風除室設置を支援(柏崎市) 除雪道具の寄贈(308 千円) ・小型除雪機やスコップ等の除雪道具を寄贈(柏崎市、刈羽村) 備品の寄贈(11 千円) ・集会所等に食器棚や体重計を設置(刈羽村) 	 <p>寄贈したホットカーペットを敷いた刈羽村仮設住宅内の様子</p>	
<p>【事業費】 実績 5,408,947 円 (予算 0 円)</p> <p>(内訳) 自己資金:6,586 円 「愛の泉」チャリティーコンサート:1,361,680 円</p> <p>ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金:4,040,681 円</p>			

啓発・広報

日本において当財団及び事業内容に関する深い理解とより多くの協力を得、信頼度・認知度を向上させるため、広報誌（FIDR NEWS）や年次報告などの定期広報物に順次カラー刷りを導入するとともに、主として新規の支援者・協力者を対象としたリーフレットやパンフレットなどの広報資料を刷新しました。

また、国立小児病院給食支援を題材に、特設 HP の開設、各所での活動報告会、及び写真展の開催と様々な媒体を通じた積極的な広報活動と支援の呼びかけを行いました。さらに、企業の社内ボランティア活動の共同実施や、募金・寄付の方法や書き損じ葉書収集協力者の増加など、活動の幅や協力者が広がりました。

<p>活動内容</p>	<p>広報物作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FIDR NEWS 56号～59号 年4回(6月、10月、12月、3月)発行 ・ 年次報告 年1回(9月)発行 ・ 広報物(リーフレット、団体・事業紹介パンフレット)刷新 ・ 透明封筒の制作 ・ ホームページ 随時更新(月平均4～5回) ・ 病院給食プロジェクト特設ホームページの開設 随時更新(月平均2回) <p>国際協力イベントへのブース出展・報告会・写真展開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルフェスタ JAPAN2007(10月6日～7日)へのブース出展 ・ カンボジア・国立小児病院給食支援プロジェクト「給食で、子どもたちに元気を！」(報告会:10月18日、写真展:10月16日～28日)開催 <p>開発教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生 FIDR 訪問受け入れ 4校 ・ 出張授業実施 2校 <p>その他(支援者を対象とした報告等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人賛助会員発行の社内報等への寄稿 (山崎製パン(株) 計6回、(株)サンデリカ 計1回) ・ 山崎製パン(株)各事業所における活動報告会開催 計4回(7月、2月、3月)、ヤマザキ製パン従業員組合研修(本部・支部)における活動説明会開催 計4回(9月～11月) ・ (株)カスタネット、京都モーニングロータリークラブにおける報告会(12月) ・ 三菱商事(株)における社内ボランティア活動共同実施(9月、2回) ・ 聖路加国際病院における説明会(6月)、写真展への参加(2月18日～24日)
<p>【啓発教育費】 実績 3,501,318 円 (予算 5,786,000 円)</p>	
	
<p>中学校を訪問し、出張授業を実施。ベトナムの民族衣装、アオザイを着たFIDR職員がFIDRの活動地であるナムザン郡の豊かな自然と人々の暮らしや文化を紹介した</p>	<p>カンボジアでの病院給食支援事業に関する写真展を開催。写真パネルのほか、現地から実際に使っている食器を取り寄せ、1日3食のメニューを展示した</p>

会議等の開催

平成 19 年度も定例の理事会・評議員会を合同で開催し、以下の議案が可決承認されました。

1. 平成 19 年 6 月 18 日、「第 41 回理事会・第 37 回評議員会」を開催し、以下の議案が可決された。

平成 18 年度事業報告書並びに収支決算書承認の件

平成 19 年度収支補正予算承認の件

財団諸規則一部改正の件

平成 18 年度末における賛助会員数及び口数報告の件

賛助会員入会者承認の件

2. 平成 20 年 3 月 19 日、「第 42 回理事会・第 38 回評議員会」を開催し、以下の議案が可決された。

平成 20 年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

役員選任の件

理事長、副理事長、専務理事、常務理事互選の件

特別顧問委嘱の件

評議員選出の件

会計処理細則一部改正の件

賛助会員入会者承認の件

特定公益増進法人認定申請の件